

大阪大学 CSCD 主催

第 7 回 科学技術コミュニケーション

デザイン・セミナー

■日時： 2006 年 7 月 13 日 (金) 18:00~20:00

■場所：

大阪大学豊中キャンパス 大学教育実践センター

管理講義棟 (共通教育棟) A103

(<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/map/toyonaka.html>)

※上記 URL に記載の地図の 10 番の建物です。

■主催： 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
科学技術キャリア創生支援室

■申し込み方法

どなたでも参加いただけます。参加費は無料です。当日参加も可能ですが、会場の都合上、定員は 30 名とさせていただきますので、下記の要領でお申し込みをいただいた方の入場を優先します。申し込みにお返事はいたしませんので、当日会場までお越しください。

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 春日, 八木

tel/ 06-6816-9494

e-mail/ stc@cscd.osaka-u.ac.jp

06.07.13

「市民の力で科学を変える～科学 NPO のつくり方」

NPO 法人「市民科学研究室」は、科学技術を扱う NPO の草分けであり、現在でも科学技術と社会の問題を市民の視点から総合的に扱っている、日本では数少ない NPO のひとつです。代表の上田昌文氏は 1992 年に前身である「科学と社会を考える土曜講座」を設立、参加者である一般市民のイニシアティブで研究テーマを決め、推進するという地道な活動を続けてこられました。テーマはバイオテクノロジー、核・原子力、薬害、廃棄物、軍事技術、環境と経済、戦争責任、科学教育、映像メディアなど多岐にわたっています。

現在、市民科学研究室が取り組んでいるプロジェクトには、全国の科学館を「行く科学館」から「使える科学館」「市民のための科学館」へ転換する方法を研究している「科学館プロジェクト」、料理を科学する「食の総合科学プロジェクト」などがあります。こういった活動は近年、高い関心と評価を受けるようになっており、NPO のプロジェクトである「生活者の視点に立った科学知の編集と実践的活用」が JST (科学技術振興機構)「社会技術研究システム・公募型プログラム」の研究課題のひとつとして採択されるまでになりました。

こうした「市民科学」という研究スタイルの源流は 70 年代の公害問題などにさかのぼりますが、今回のセミナーでは大学ではなく NPO で研究することの意義とおもしろさ、困難などを豊富な経験を元に語って頂くとともに、市民科学の歴史を振り返ることで提起される今日的な課題についても論じて頂きます。

■講師紹介

上田 昌文 (うえだ・あきふみ) 氏

1961 年生まれ。NPO 法人「市民科学研究室」代表。大阪出身。大学では分子遺伝学、発生生物学を専攻。学生時代から、アジア太平洋地域の核被害や原発問題に取り組む。2003 年から科学技術社会論学会の理事。現在、JST (科学技術振興機構) 社会技術研究開発センターの助成を受けた研究 (2005 年～2007 年) の研究代表。

2005 年 10 月から東京大学「科学技術インタープリター養成プログラム」特任教員。出産・子育て支援のコミュニティウェブ「ベビーコム」のエコロジーページ (6 月にムック第 1 号として『子育ての環境』として出版)、雑穀を使った料理を広める食の NPO「いるふあ」の雑誌『つぶつぶ』にも連載を書いている。翻訳書『薬に病む第三世界』(劉草書房)、『携帯タワーの健康影響に関するザルツブルク国際会議議事録』(ガウスネット) 他。

子どもたちと遊ぶこと、クラシック音楽、古本屋めぐりが大好き。

※本企画は、文部科学省「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」に採択された「プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業」の一環として行っています。

※大阪大学 CSCD の「科学技術コミュニケーションデザイン・カフェ」は「科学技術コミュニケーションデザイン・セミナー」に改名しました。今後も様々な「科学技術コミュニケーター」をお招きして、様々な問題について語って頂く予定でありますので、ご興味のある方はどなたでもふるってご参加ください。